

職員提案票

<p>1 提案事項 (タイトル) 25文字以内</p>	<p>地下道のケース展示の情報を充実させる</p>
<p>2 提案の背景・現状分析 (何が問題か。)</p>	
<p>上野市駅と南庁舎を結ぶ地下道は伊賀鉄道利用者や観光客が通る要所である。しかし、展示ポスターの前で外国人観光客が和菓子を見て「スシ？」と呟いているところや、年配のご夫婦が「わかりにくいね」と言いながら歩く光景を目撃したことがあった。 多くの方の目に触れる展示ケースなのに伊賀市として十分に活用できておらず、それどころか、イメージダウンになっている。観光地や観光地でなくても駅につながる通路はどここの市町でも顔となるようディスプレイにはもっと力を入れているように思う。</p>	
<p>3 提案の内容 (何をどうするか。)</p>	
<p>ディスプレイの写真にコメント（日本語、外国語、伊賀嵐マイ吹き出し）をつけたり、季節ごとに情報を入れ替える等、わかりやすく、楽しく活用する。 その他 ・いっそ貸出す（ふんと、まちづくり伊賀上野、ケーブルテレビ等情報発信に長けている団体） ・高校生の成果発表の場に使う。 ・まちづくり協議会単位の展示を月替わりで行なう。等</p>	
<p>4 実施することで期待される効果やメリット (結果的にどうなるか。)</p>	
<p>・通行する人に伊賀市の情報を届けることができ、観光客の満足度の向上、高校生の地元愛の醸成が期待できる。 ・雰囲気良くなることで、防犯につながる。</p>	
<p>5 実施にあつて想定される問題点やリスク (実現するために必要なこと。)</p>	
<p>費用や管理主体、運用方法を決めて継続できるよう調整する必要がある。 ・多くの方に利益があると考えられ、費用は寄付も利用できると考える。 ・南庁舎の改修にあわせて、ハード面でのアプローチも有効である。</p>	
<p>6 提案者からのコメント</p>	
<p>たくさんの方が考えられると思います。 地下道の現状に満足がされていない方、一緒にご提案をお願いいたします。</p>	
<p>7 希望する意見照会先 (担当課)</p>	
<p>観光戦略課、地域づくり推進課、文化交流課 等</p>	

審査結果	
判定区分 (審査委員会のコメント)	褒賞 (審査委員会のコメント)
実施検討	優秀
・すぐにでも取り組むべき市の課題である。	多くの職員が日頃から認識しながら、取り組めていなかった課題の解決に向け、踏み出すきっかけとなった点が評価できる。
実施検討のポイント	
<ul style="list-style-type: none"> ・観光、若者活躍などターゲットとする要素を広く検討すること。 ・テーマ、季節性なども考慮すること。 	
担当課における検討結果	
<p>【総合政策課】</p> <p>現在ディスプレイを管理する観光戦略課との協議を踏まえた検討結果は以下のとおり</p> <p>1. 運用面における現状課題</p> <p>① 地上を通る伊賀鉄道の振動や地下道内の湿度が、ディスプレイの照明設備に悪影響を及ぼしている（蛍光灯の寿命が極端に短い、カバーが頻繁に外れる）。</p> <p>② ディスプレイサイズが規格外（1740mm×700mm 20箇所）であり、定型のポスターが掲示できない。（現在は、当該サイズに作成した専用のポスターを掲示している）</p> <p>③ 地下道の利用状況（誰がどの程度）について、データが存在しない。 （ターゲット設定にあたっての根拠がない）</p> <p>④ 三重県屋外広告物条例の基準を充たした内容でなければならない。</p> <p>2. 改修・修繕の方向性</p> <p>① 大規模な改修については、現在検討されている南庁舎の利活用に向けた方向性を踏まえ実施されることが望ましいことから、運用面での課題解決を目的とした小規模な修繕までに留めることを前提として内容を検討する。</p> <p>② デジタルサイネージ、タッチパネルなどのIT・電子機器の設置を検討する場合は、上記1. ①の課題について留意する必要がある。</p> <p>3. 実施検討方針</p> <p>上記を踏まえ、以下の内容を実施する。</p> <p>平成 29 年度</p> <p>① 通行量調査（上野市駅方向からの地下道通行者について以下の区分・属性別に行った）</p> <p>ア 曜日（土・日・祝／平日）・時間（午前7時から午後7時まで）</p> <p>イ 属性（市民／高校生／観光客（日本人）／観光客（外国人））</p>	

《調査結果》

(地下道利用利用者数)

調査日	歩行者数	上野市駅 降車数
3/30 (金)	454 人	816 人
3/31 (土)	535 人	792 人

(属性別利用率)

市民	観光客	外国人	学生
65%	22%	2%	10%
39%	48%	5%	9%

(年代別利用率)

調査日	10代	20代	30代	40代	50代	60代
3/30 (金)	23%	16%	13%	21%	12%	15%
3/31 (土)	34%	9%	16%	15%	10%	16%

(年代・属性別歩行者数)

平日歩行者内訳 (3/30 (金))				休日歩行者内訳 (3/31 (土))			
年代	属性	歩行者数	総合計	年代	属性	歩行者数	総合計
10代以下	市民	33 人	104 人	10代以下	市民	60 人	182 人
	観光客	25 人			観光客	70 人	
	外国人	0 人			外国人	4 人	
	学生	46 人			学生	48 人	
20代	市民	56 人	72 人	20代	市民	23 人	49 人
	観光客	10 人			観光客	12 人	
	外国人	6 人			外国人	14 人	
30代	市民	51 人	60 人	30代	市民	38 人	86 人
	観光客	6 人			観光客	43 人	
	外国人	3 人			外国人	5 人	
40代	市民	81 人	95 人	40代	市民	33 人	81 人
	観光客	13 人			観光客	46 人	
	外国人	1 人			外国人	2 人	
50代	市民	45 人	56 人	50代	市民	20 人	51 人
	観光客	11 人			観光客	31 人	
	外国人	0 人			外国人	0 人	
60代以上	市民	31 人	67 人	60代以上	市民	32 人	86 人
	観光客	36 人			観光客	54 人	
	外国人	0 人			外国人	0 人	
合計		454 人		合計		535 人	

平日は市民が、休日には外国人を含む観光客が多く通行している。

調査日が春休み期間中であるため、平日の学生数はもっと多いと考えられる。

平成 30 年度

①の結果を踏まえて②～④を関係課と協議のうえ実施検討を行う。

② 課題整理、ターゲット・目標の設定

ア 課題

(観光客利用に対する課題)

- ・地下道の案内図がなく、分かりづらい。
- ・どこにつながる地下道かわからない。
- ・外国語表記がなく、外国人への配慮不足。

(市民の生活導線としての課題)

- ・暗い。
- ・バリアフリーでない。

イ 他市事例調査

・観光地としての地下道事例

(三重県伊勢市) 屏風絵を展示し、地下道自体が観光施設としての役割を持つ。平成 21 年に上屋を改修。観光地としての景観を演出。

(広島県東広島市) 酒処として有名であることから、外観を酒蔵風に仕上げている。

・住民の導線としての地下道改修

(奈良県天理市) エレベーター、エスカレーターを設置しバリアフリー化したうえで、市の掲示板を設置して市情報の発信を行う。壁面には施設案内看板を設置して導線としての機能を高めている。

・市民や団体、行政の展示場としての地下道活用

(宮城県仙台市) 青葉通り地下道ギャラリーとして、営利目的でない市民、団体、行政情報について年に 1 度募集のうえ、年間計画を作成して展示を行っている。

・展示ポスターの工夫

(新潟県上越市) 地下道ではないが、観光ポスターに QR コードを配置し、多言語対応が出来るようなポスターとなっている。

ウ ターゲットと目標の設定

・ターゲット

市民とインバウンドを含む観光客

・目標

市民のシビックプライドを高めること

観光客に伊賀市をより知って貰い、満足度を高めること

③ 実施検討案

コンセプト 『市民参加型の市民や観光客が通りたいと思う地下道作り』

コンセプトを実現するため地下道への誘導看板設置を検討したうえで、3つの案を提案する。

また、それぞれの掲示物には QR コードを設け、位置図や翻訳情報等を表示出来るように満足度を高める仕組みが必要と考える。

案1 『コストを掛けずに現状ある材料を活用する実施検討案』

- ・既存プロジェクトの展示場として、年間計画を策定し、定期的に展示物を変更するような仕組みを作る。

《具体案》

2月～4月忍者フェスタ関連展示、5月～7月うえのまちのフォトコンテストの展示、8月～10月天神祭り関連物展示、11月～1月学生プロジェクト展示

(メリット)

- ・コストがほとんど必要ない。
- ・既存プロジェクトをベースとするので、新たな作業負担が少ない。
- ・定期的に掲示物を変更することができ、マンネリ感を解消できる。
- ・フォトコンテストや学生による展示を行うことで、シビックプライドの形成に効果が期待できる。

(デメリット)

- ・関連する各課に新たな作業負担を強いることになる。
- ・何をどの時期に掲示するといった調整作業が必要。
- ・既存作品の掲示となるので、地下道を通するターゲット層に絞った掲示ではないため、期待される効果を上げるかが不透明。

案2 『コストを掛けずに新たにプロジェクトを立ち上げる実施検討案』

- ・市民や学生に観光客を対象とした伊賀市PRに関する掲示物を作成して貰う。

《具体案》

地元中学生による伊賀上野駅にあるPRポスターのような形でありながら、伊賀市全体のイメージポスターではなく、伊賀市にある観光・文化施設に絞ったポスターや写真などの掲示作品を作成して貰う。

(メリット)

- ・コストがほとんど必要ない。
- ・シビックプライドの形成に効果が期待できる。
- ・テーマを絞ることで、その時の状況に沿った内容の展示が期待できる。

(デメリット)

- ・期待する掲示物が成果としてあがってくるとは限らない。
- ・学校に依頼する場合、調整作業が必要となる。
- ・新たな作業負担が生じる。
- ・年に何度も掲示物を作成、選定することは出来ないと考えられ、年間通し同一の掲示物となることが予想される。

案3 『小規模修繕を含む、ある程度のコストを掛けてPR材料を作成する実施検討案』

- ・ディスプレイサイズが定形外であることから、ディスプレイの改修を行い、デジタルサイネージ、またはLEDパネルによる掲示を行う。

(メリット)

- ・現在の「暗い」という課題を解消できる。
- ・掲示物が目立ち、高いPR効果が望める。

(デメリット)

- ・コストがかかる。
- ・耐久性の問題や湿度の問題などクリアすべき課題がある。

④ 行程・スケジュール (案)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
各課協議		←————→									↔		
年間スケジュール案策定					←————→						↔		
展示内容調整							←————→						
施工・修繕 (必要な場合)							←————→						
実施											←————→		

次年度分

次年度分